

# だいこん萎黄病対策としての抵抗性品種の利用

(園試 野菜花き部, 環境部)

## 1. 背景とねらい

本県の夏だいこんは高標高地を中心に主産地化が図られてきたが、近年、萎黄病が発生し生産が不安定となっている。産地を維持するために、早急な防除対策の確立が望まれている。

そこで、抵抗性品種の導入、土壌消毒等当面の対策について、現地で実用性を検討した結果、成果が得られたので参考に供する。

## 2. 技術の内容

1) 萎黄病対策として抵抗性品種の導入は有効で、実用性が高い。

2) YRくらま, YR61が抵抗性強く、品質も優れ有望である。主な特性は以下のとおりである。

品 種 名 (育成元)	作 型	根色, 形状	備 考
YRくらま (タキイ種苗)	夏秋どり, 耐病総太りに同じ。	青首, 総太り型 根径 6~7cm 根長 38cm程度	収穫期は耐病総太りより5~7日早い。遅れると割れやすくなるので収穫適期を守る。
YR61 (渡辺採種場)	"	青首 (YRくらまよりやや淡い) 総太り型 形状, 揃い良好 根径 6~7cm 根長 35cm程度	収穫期は耐病総太り並で遅れるとやや割れが生ずるので注意する。

3) 適応地域 県下全域 萎黄病発生地

## 3. 指導上の留意事項

1) 抵抗性の強い品種でも菌密度の高い条件では発病することがある。

したがって下記の対策を実施し、菌密度の低下を図るようにする。

2) 萎黄病は難防除土壌病害で単一の手段によっては防除できず、輪作, 抵抗性品種の導入, 圃場衛生の徹底, 土壌消毒等の個別技術を併用した総合防除技術で対応する必要がある。

3) 本病の発生, 拡大はだいこん専作で, 連作が長く続いたことに起因している。抵抗性品種を用いても連作を続ける限り菌密度は高まり防除が困難となることから, 連作は避け, 地域に合った計画的輪作体系を実施し, 同時に有機物施用等による土づくりの勵行によって長期にわたる生産力の安定向上を図る。

4) クロールピクリンによる土壌消毒は発病抑止効果が認められるので, 総合防除対策の一つとして実施する。

## 4. 当該事項にかかる試験研究課題名

だいこん萎黄病対策現地試験

## 5. 参考文献

岩手園試 野菜試験成績概要書 (昭60~61)

6. 試験成績の概要

1) 試験方法

- (1) 試験実施場所 川井村門馬  
 (2) 供試土壌 表層腐植質火山灰土壌  
 (3) 供試品種 (標) 耐病総太りほか別表のとおり  
 (4) 播種期 7月8日(昭60), 7月25日(昭61)  
 (5) 栽植様式 畦幅 60cm, 株間 27cm  
 (6) 施肥量 (kg/10a) N 8, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 20, K<sub>2</sub>O 8  
 (7) 調査方法 収穫期に地上部発病株(枯死株, 黄萎株)と残りの外観健全株に区分し, 外観健全株については根部を切断して発病の有無を調査した。調査個体数20株。

表1 発病率調査

(昭61)

区 別	枯死 株率 (%)	黄萎 株率 (%)	外観健 全株率 (%)	外観健全株の根部発病程度別割合(%)				健 全 株 率 (%)		
				-	+	++	+++			
耐 病 性 抵 品 抗 種 性 の 検 定	1. 耐病総太り	50.0	5.0	25.0	60.0	0	20.0	20.0	15.0	
	2. 夏みの早生3号	0	0	100.0	60.0	40.0	0	0	60.0	
	3. YRくらま	0	0	100.0	100.0	0	0	0	100.0	
	4. 快進青づまり	0	0	100.0	90.0	10.0	0	0	90.0	
	5. 快進総太	0	0	100.0	50.0	0	18.8	31.3	50.0	
	6. 福 味	0	0	100.0	80.0	20.0	0	0	80.0	
	7. おかもと13号	0	0	100.0	90.0	10.0	0	0	90.0	
	8. 新打総太り	0	0	100.0	70.0	0	10.0	20.0	70.0	
	9. YR 61	0	0	100.0	100.0	0	0	0	100.0	
	10. YR 43	0	0	100.0	80.0	0	10.0	10.0	80.0	
ル石 ピ灰 ク窒 リ素 ン・ のク 効口 果I	1. 無処理	A	55.0	12.5	32.5	61.5	0	7.7	30.8	20.0
		B	47.5	15.0	37.5	20.0	13.3	20.0	46.7	7.5
	2. 石灰窒素	A	55.0	15.0	30.0	66.7	0	25.0	8.3	20.0
		B	20.0	22.5	27.5	18.2	18.2	9.1	54.5	5.0
	3. クロールピク リン+石灰窒素	A	17.5	5.0	77.5	77.4	9.7	6.5	6.5	60.0
		B	41.7	10.0	48.3	62.1	13.8	6.9	17.2	30.0
	4. クロールピク リン	A	17.5	17.5	65.0	69.2	23.1	3.8	3.8	45.0
		B	30.0	10.0	60.0	54.2	12.5	16.7	16.7	32.5

- : 健全  
 + : 導管部 わずかに褐変 ○  
 ++ : 導管部 1/2程度に褐変 ○  
 +++ : " 全体に濃く褐変 ○